

キャラクター名

黒峰 幽理 <コミネ ヲリ>

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ ブラックドッグ		ワークス	UGN	エージェントA	カヴァー	
	オプショナル		年齢	20		性別	男
覚醒	素体		衝動	殺戮		初期侵食率	37%
出自	天涯孤独		経験	脱走		邂逅	殺意

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	39
肉体	5	1	0		3	9	行動値	3
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	3
精神	1	0	0			1	戦闘移動	8
社会	1	0	0			1	全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	2	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
	白兵	14r+13	1	9		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：UGN幹部	

合計装甲：	0	合計回避：	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
春日恭二×	P 執着	N 憎悪		
玉野 椿×	P 尊敬	N 無関心		
五十嵐 零×	P 連帯感	N 無関心		
ワカ×	P 執着	N 殺意		
鈴宮 敬×	P 好奇心	N 隔意		
支部長 ×	P 感服	N 敵愾心		
D015：実験体	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P：	3
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンソリテイト：ブラックドッグ	2	2	メジャー			シールド		
効果：C値-SL（下限値：7）								
完全獣化	3	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果：シーンの間【肉体】を使用した判定ダメージ+【LV+2】個								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果：武器：攻撃力+【LV+8】 G値+1								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果：戦闘移動する 1シーンLV回								
アタックプログラム	5	2	メジャー	武器		白兵		
効果：命中判定の達成値+【LV*2】								
バリアクラッカー	3	4	メジャー	武器		白兵	80↑	
効果：防御不可装甲無視攻撃								
猫の瞳	★							
効果：								
電波障害	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

黒峰 幽理とは本名ではない。本名は知らない。
幽理は幼いころからFHの研究所で被検体として過ごしてきた。
研究所では、ジャムになった者の力をオガードで引き出し強化する事を目的としており
幽理はキマイラのシンドロームを強化する事を目的に実験され続けた。
13歳の頃に実験が成功した初めての被検体となったが
代償として力を使うとジャムの様な姿になり右眼球が破裂し外でも戻らない様になってしまった。
研究員たちの想定より遥かに凌駕した力を付けた幽理は研究所を破壊、研究所に居た研究員及びエージェントを皆殺しにして脱出。後に彷徨っていた所をUGNに保護される。
FHへの憎悪が消えない幽理は、そのままUGNの兵士として訓練と任務に励む
しかし、任務でFHエージェントと戦う時にその溢れんばかりの憎悪のせいか残虐性が増し
周囲への被害が通常よりも拡大してしまい玉野椿教官に毎回注意されていた。
そのせいもあって同期のフルドレンからは好かれてはならず、FH関係者さえ殺せばいい幽理も特に気にしていなかった。
気づいた時には『狂い死神/リバー』と呼ばれるようになっていた。
そして現在、フルドレンからエージェントになってもFHに対する憎悪は薄れておらず暇があればFH関係者を殺すために街を彷徨い歩いている。一人で行動する事が多いい。
趣味は散歩・・・・・・・・・・しながらFH関係者を殺して周ること
UGNに所属してるのはFH関係者の情報を得やすいから

彼はジャム化してしまった、だが彼に悔いはなかった・・・・・・・・
最後に自分と似た境遇の子を救い、思い出の場所で大切な事を思い出しかつての仲間の人にやっと逝けるのだから・・・・